

「稼ぐ力」の方程式

PILLARの「稼ぐ力」は、独自技術と現場力を土台に、高付加価値な製品・サービスを創出し、お客様からの信頼を積み重ねることで培われてきました。

その力を、収益性、資本効率、さらには成長への期待へと結びつけ、企業価値向上の構造として示します。

／PILLARの「稼ぐ力」は、どこから生まれるのか

独自の素材開発力と流体制御ソリューション。
一品一様の提案力と、一貫生産に確かな供給力。
当社の「稼ぐ力」は、こうした強みを基盤としています。

当社の競争優位性は、素材、設計、製造、品質、ソリューションの提供を一体で磨き上げることで、お客様ごとの課題に対し、最適な価値を提供しています。この一貫した価値創出の仕組みが、継続的な取引と収益の安定性を支えています。

今後は、コア事業の高付加価値化に加え、成長領域での事業拡張やグローバル重点市場の拡大を進めることで、変化に強い事業構造の確立を目指していきます。製品提供に留まらず、流路システム全体の提案・設計・メンテナンスまで価値提供の幅を広げ、より安定的で持続的な収益基盤へと進化させていきます。

■ 当社の「稼ぐ力」として発揮される価値



■ 社内で重視する代表的な指標



◇新中期経営計画「One2030」で目指す姿

高付加価値化とソリューション化を進めることで、当社は市況変動に左右されにくい「稼ぐ力」を育て、持続的な企業価値向上へつなげていきます。One2030では、規模の拡大に加え、収益性、効率性、還元のパランスを重視しながら、変化に強い事業構造の確立を目指しています。



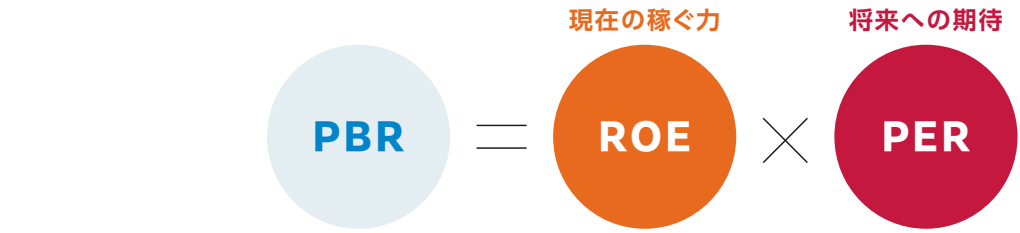
／「稼ぐ力」を、企業価値向上へどうつなげていくか

当社は、PBRを「現在の稼ぐ力」と「将来への期待」の両面からとらえています。

PBRは持続的な向上に向けて、利益成長の確度と安定的な収益性を高めることが重要なテーマです。

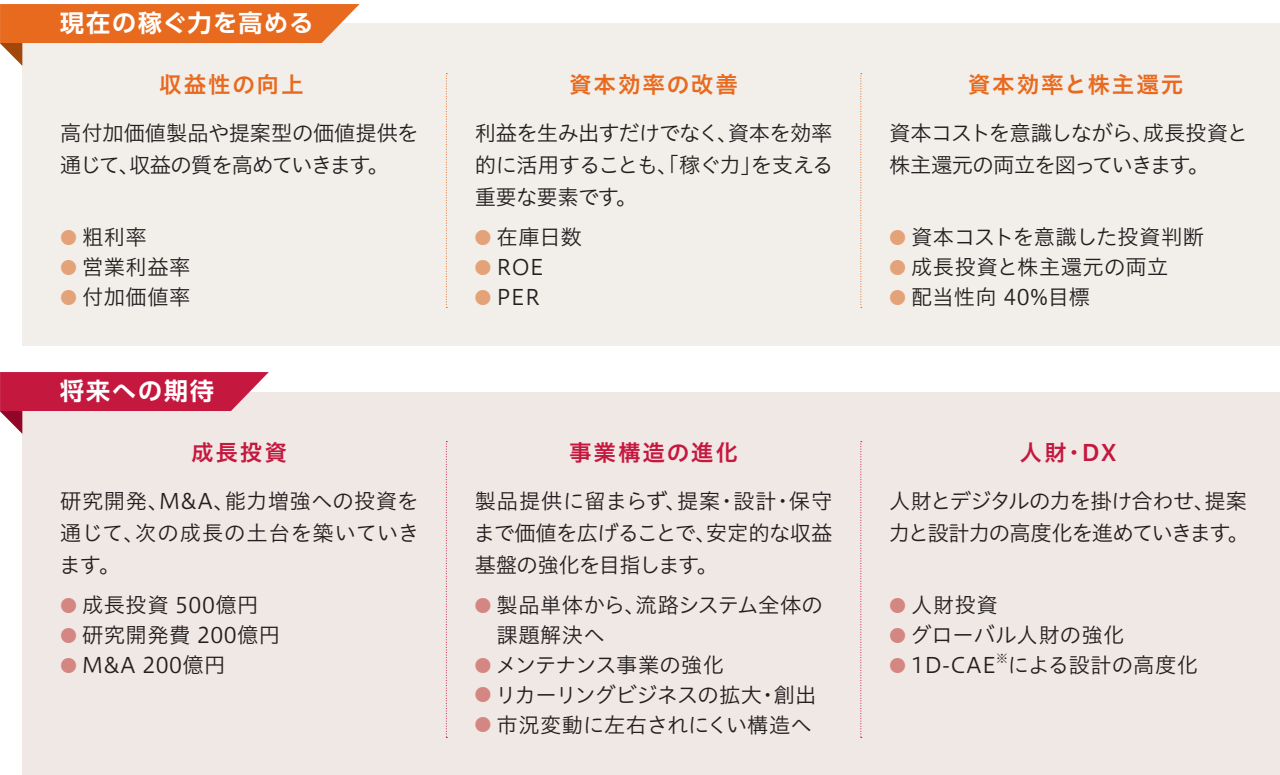
足元では、収益性と資産効率を高めることで、株主資本コストを上回るROEの実現を目指します。

同時に、成長投資、事業構造の進化、人財・DXへの取り組みを通じて、中長期の成長期待を育てていきます。



資本を活用して利益を生み出す力を示すROEと、将来の成長性や収益の持続性に対する市場の評価を映すPER。

当社は、この両面から企業価値向上をとらえています。



※ 1D-CAE：モデルベース開発において活用される、製品の「機能や性能」に焦点を絞って、物理的な挙動を数式やブロック線図を用いて1次元的（システム全体）にシミュレーションする手法。

価値創造プロセス

PILLARグループでは、パーパスでも掲げているように、当社グループが「社会を支える」未来を創る」ため、電子機器関連事業と産業機器関連事業という2つの事業を中心に、社会課題や当社にとってのマテリアリティを意識しながら、社会にさまざまな価値を提供しています。

PILLARグループの
パーパス

“社会を支える”未来を創る

CLEAN

SAFETY

FRONTIER

社会課題【外部環境】

地球環境保全

多様性尊重

IoT／DX化

機会

環境配慮型ビジネスの拡大

半導体分野のさらなる成長

あらゆるものにセンサーが
搭載されるIoTの時代

気候変動

人権問題

労働力不足

市場規模の急拡大
および縮小

体制の変化や規制等の強化

競合の出現、コスト変動等による
国際競争力の低下

詳細は P.21

リスク

取り組むべき重要課題

攻めの マテリアリティ

- 脱炭素と省エネルギー
- 循環経済と省資源

- 化学物質による汚染防止と水資源保全
- 社会課題に応じた製品開発・製造

- 生物多様性の保全
- 多様な人財が成長活躍できる職場の創出

- 世界・社会との共生
- 透明で責任あるガバナンスの確立

守りの マテリアリティ

詳細は P.21-24

INPUT

財務資本

- 健全な財務体質

製造資本

- グループ内一貫生産体制

知的資本

- 流体制御技術
- 長年培ったノウハウ

人的資本

- グローバルで多様な人財
- プロフェッショナル人財

社会・関係資本

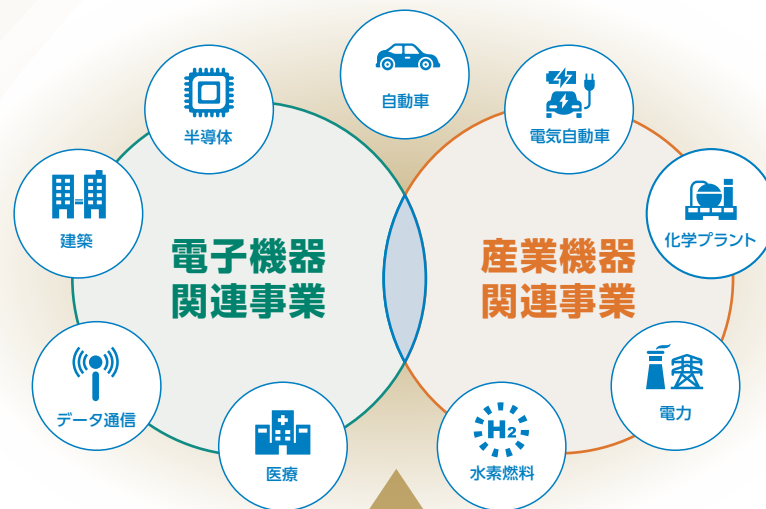
- 多様な分野の顧客接点
- 安定供給を実現する仕入先

自然資本

- 自然エネルギー利用促進
- 環境負荷低減を実現する製品

詳細は P.25

BUSINESS MODEL



100年磨いた
素材開発力

素材

×

技術力

×

豊富な流体制御
ソリューション

詳細は P.29-30

OUTPUT

主要製品

ピラフロン (ふっ素樹脂製品群)

継手・チューブなど



ふっ素樹脂基板

免震装置

メカニカルシール



グランドパッキン

ガスケット

詳細は P.31-32

One2030

2030年度目標
(2025年度実績)

売上高 **1,000** 億円
(594億円)

営業利益 **250** 億円
(121億円)

ROE **15%** 目標
(11.7%)

配当性向 **40%** 目標
(33.5%)

5年累計
成長投資 **900** 億円
(3ヶ年累計成長投資312億円)

詳細は P.33-36

OUTCOME

社会・環境に よる価値

流体制御ソリューションを通じて、人々の生活に安心・安全をもたらす製品・サービスを提供するとともに、環境負荷の低減を通じて持続可能な社会・環境の実現に貢献します。

PILLARに よる価値

流体制御ソリューションを通じて、社会・環境課題の解決に資する製品の提供と、新市場に対応する製品開発・製造を推進することで、事業領域の拡大と持続的な成長を実現します。

詳細は P.31-32

マテリアリティ

社是である「品質第一・和衷協力・一歩研究」の実践を通じ、持続可能な社会への貢献を図ることを目指すPILLARグループは、「“社会を支える”未来を創る CLEAN・SAFETY・FRONTIER」というパーパスの実現に向けて取り組みを進めています。

その一環として、「流体を制御する技術」をひたむきに磨いてきた当社グループとして取り組むべきマテリアリティを特定しています。

当社グループを取り巻く外部環境（機会とリスク）

機会	環境配慮型ビジネスの拡大 電気自動車用のバッテリーや水素、アンモニア用の高性能材料を用いたシール材、医薬、食品業界などの新市場への新製品提供	半導体分野のさらなる成長 環境保全にも貢献するようなさらなるクリーン化、省エネ型製品の提供	あらゆるものにセンサーが搭載されるIoTの時代 これまで以上に高温な環境、耐薬品が強く求められるような過酷環境におけるセンシングの提供
リスク	市場規模の急拡大および縮小 半導体・液晶市場などにおける予期しない急速な市場の拡大および縮小に伴う技術革新、資源供給不足などにより起こる機会損失	体制の変化や規制等の強化 進出国・地域における予期せぬ政治・経済体制の変化のほか、紛争、自然災害、感染症、環境配慮等による原材料規制の強化	競合他社の出現、コスト変動等による国際競争力の低下 革新的な技術を持った競合他社の出現、製造プロセスの変化やインフラコスト増等による国際価格競争力の低下

当社グループにとってのマテリアリティ

当社グループは、サステナブル基本方針で掲げている、事業を通じたサステナブル社会への貢献と、持続的な企業価値向上をとともに実現するために、当社グループとして取り組むべき重要課題（マテリアリティ）について特定しています。

特定されたマテリアリティは当社グループが事業を推進するうえでの道標として、事業活動を通した当社グループとしての社会・環境へのポジティブなインパクトの創出、もしくは当社グループがもたらすネガティブなインパクトの低減に寄与します。

マテリアリティの特定プロセス

社会に存在するあらゆる課題の中から、当社グループが特に優先して取り組むべき重要課題を特定するにあたり、2022年に経営層で研修および議論を行いました。

■ 特定プロセス

現状把握と社会課題の洗い出し	企業の事業環境や社会的責任を踏まえ、国際ガイドライン ^{※1} を参照しながら、グローバルな社会課題を網羅的に抽出しました。外部有識者 ^{※2} との対話やワークショップを通じて、企業が将来どのような社会課題の解決に貢献したいかという「ありたい姿」から逆算して整理しました。企業理念や中期経営計画との整合性も重視し、議論を重ねながらマテリアリティの候補を構築しました。
社会課題の評価と優先順位付け	抽出した各課題に対して「経営視点の重要度」と「ステークホルダー視点の重要度」を数値化し、マテリアリティマップを作成しました。評価にあたっては、事業への影響度、社会的責任、将来の成長機会などを考慮し、課題の本質を見極めるプロセスを重視しています。また、外部有識者とも議論を重ね、対外的にも整合性が取れるようにしました。

マテリアリティ案の妥当性確認	優先順位付けしたマテリアリティ案については、有識者との対話やフィードバックを通じて妥当性を検証しました。特に、経営層や事業部門との意見交換を重ねることで、企業戦略や価値創造ストーリーとの整合性を取りました。また、他社事例や業界動向も参考にしながら、マテリアリティの表現や分類の見直しが行われ、最終案に向けた調整が進められました。この段階でも、議論を通じてマテリアリティマップの再評価や課題の再分類が行われました。
経営会議・取締役会での承認	作成したマテリアリティについて当社グループとしての妥当性を経営会議で確認し、最後に取締役会の承認を得て、決定しました。

※1 FTSE、MSCI、GRIスタンダード、ISO26000、SDGs169ターゲット
※2 政策・経営・サステナビリティ分野の第一線で活躍する有識者

このマテリアリティは今後、当社グループを取り巻く経営環境や、グローバルに求められる社会課題の要請の変化、ステークホルダーとの対話の中でいただく助言などに基づき、適宜レビューと見直しを図っていきます。

マテリアリティー一覧

当社グループでは、8つのマテリアリティグループと21のマテリアリティを特定しています。

Gr.1: 脱炭素と省エネルギー

- 1 流体制御技術と材料技術等を活かした脱炭素と省エネルギーを実現する製品の開発・製造
- 2 製造でのクリーンエネルギーと省エネの拡大

Gr.2: 循環経済と省資源

- 3 IT・DX技術の活用やサステナブル原材料を用いたシール製品の開発・製造
- 4 省資源型製品の開発・製造
- 5 生産技術向上（IT・DX、自動化）等による資源の効率化・サステナブル化と廃棄物3R

Gr.3: 化学物質による汚染防止と水資源保全

- 6 化学物質による汚染防止と水資源保全に貢献する製品の開発・製造
- 7 製造における化学物質による汚染防止と水資源保全

Gr.4: 生物多様性の保全

- 8 各拠点での生物多様性保全の推進

Gr.5: 社会課題に応じた製品開発・製造

- 9 震災・水害などの災害に対応する製品の開発・製造
- 10 市場ニーズ（センサー事業、IoT活用等）に対応した技術の応用による新製品の開発・製造
- 11 製品サービスの安全性追求と品質保証

Gr.6: 多様な人財が成長・活躍できる職場の創出

- 12 労働安全衛生
- 13 人権尊重および多様な人財との働き方の推進
- 14 人財育成と採用・定着

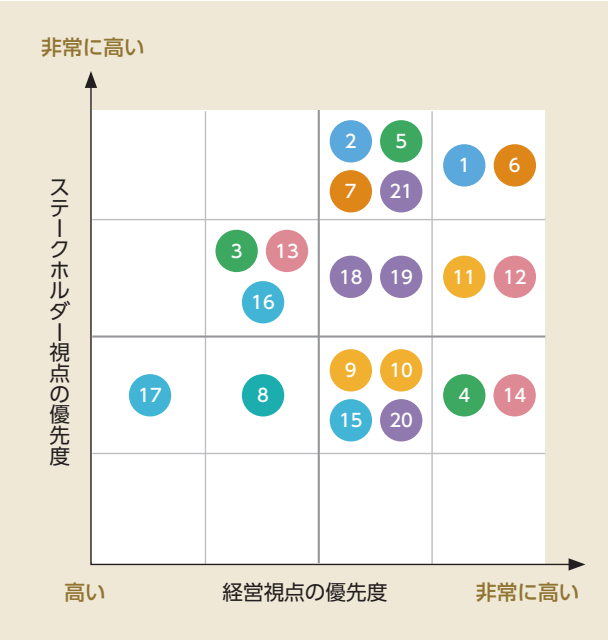
Gr.7: 世界・社会との共生

- 15 産官学連携によるイノベーション創出
- 16 CSR調達の推進
- 17 地域・コミュニティの発展への寄与

Gr.8: 透明で責任あるガバナンスの確立

- 18 取締役会の独立性・透明性の確保
- 19 事業活動における潜在リスク管理体制の整備
- 20 企業理念と誠実性の実行
- 21 腐敗防止

■ マテリアリティマトリックス



マテリアリティ

マテリアリティにおけるKPI・目標と実績

特定した8つのマテリアリティグループや21のマテリアリティをESGやSDGsと紐付けながら、KPIや目標をそれぞれに定めました。
課題解決に向けた目標の達成に取り組むことで、事業活動を通じた持続可能な社会への貢献を目指します。

E	S	G	マテリアリティグループ	マテリアリティ	KPI・2025年度目標	2025年度実績	KPI・2030年度目標	関連するSDGs	参照頁
			Gr.1: 脱炭素と省エネルギー	① 流体制御技術と材料技術等を活かした脱炭素と省エネルギーを実現する製品の開発・製造	・環境貢献型製品の売上高 31億円	・環境貢献型製品の売上高 54億円	・環境貢献型製品の売上高 60億円	7,9,12,13	P.67
				② 製造でのクリーンエネルギーと省エネの拡大	・自社排出CO ₂ 排出量 25%削減(2023年度比) ・自家消費型太陽光発電設備の設置	・CO ₂ 排出量(Scope1+2)8,358t-CO ₂ (56%減/2023年度比) ・ICPを18,000円/t-CO ₂ に見直し	・自社排出CO ₂ 排出量 50%以上削減(2023年度比) ・自家消費型太陽光発電設備の設置	7,9,12,13	P.65-67
			Gr.2: 循環経済と省資源	③ IT・DX技術の活用やサステナブル原材料を用いたシール製品の開発・製造	・環境へ配慮した製品のラインナップ拡充 ・再生樹脂を内製化する技術の確立	・磁気浮上ポンプの実用化に向けた開発 ・再生樹脂の内製化技術の継続開発	・環境へ配慮した製品のラインナップ拡充 ・再生樹脂の内製化技術の確立	3,8,9,12	P.48
				④ 省資源型製品の開発・製造	・お客様の省資源に貢献する製品3件以上の上市	・お客様の省資源に貢献する製品の上市 8件	・環境負荷低減および省資源化に貢献する製品・サービスの継続的な創出と市場展開	7,8,9,12,13	P.48 P.67
				⑤ 生産技術向上(IT・DX、自動化)等による資源の効率化・サステナブル化と廃棄物3R	・開発リードタイムの短縮、生産効率向上	・CAE技術の高度化・試作・評価回数の削減による開発期間短縮への取り組み	・開発リードタイムの短縮、生産効率向上	8,9,12	P.51
			Gr.3: 化学物質による汚染防止と水資源保全	⑥ 化学物質による汚染防止と水資源保全に貢献する製品の開発・製造	・化学物質による汚染防止と水資源保全に貢献する製品の開発・製造	・食品業界向けPTFEフリーパッキンの開発	・化学物質による汚染防止と水資源保全に貢献する製品の開発・製造	3,4,6,8,11,12,14	-
				⑦ 製造における化学物質による汚染防止と水資源保全	・PRTR法指定化学物質3物質の全廃	・洗浄工程における純水への切り替え推進	・PRTR法指定化学物質使用量の削減 ・廃水中の汚染物質濃度法的基準値以下	3,6,11,12,14	P.42
			Gr.4: 生物多様性の保全	⑧ 各拠点での生物多様性保全の推進	・自然保護活動の推進	・TNFD提言に基づく情報開示 ・三田市のさくら保全活動への協力継続	・自然保護活動の推進	14,15	P.68-70
			Gr.5: 社会課題に応じた製品開発・製造	⑨ 震災・水害などの災害に対応する製品の開発・製造	・お客様のBCPに対応した免震製品の開発 ・生産工場や公共施設、再開発案件へ納品	・傾斜すべり支承拡販に向けた地震応答解析支援体制の構築 ・生産工場や公共施設、再開発案件へ納品	・お客様のBCPに対応した免震製品の開発 ・生産工場や公共施設、再開発案件へ納品	1,9,11,13	P.47
				⑩ 市場ニーズ(センサー事業、IoT活用等)に対応した技術の応用による新製品の開発・製造	・新素材、新技術開発と新商品の投入 ・MS状態監視用IoTデバイスによるソリューションサービス開始	・溶融塩用途向けシール材の開発 ・磁気浮上ポンプの実用化に向けた開発 ・MS状態監視用IoTデバイス「PISMA」の開発	・新素材、新技術開発と新商品の投入 ・状態監視・故障予知技術を活用したソリューションサービスの展開	3,8,9,11	P.44 P.48
				⑪ 製品サービスの安全性追求と品質保証	・業務改革活動の推進	・生成AIを用いた業務改革活動 ・IT・DXを用いた品質向上	・業務改革活動の推進	8	P.50
			Gr.6: 多様な人財が成長・活躍できる職場の創出	⑫ 労働安全衛生	・労働災害撲滅(休業災害件数0件) ・健康経営への取り組み推進	・休業災害件数 1件 ・「健康経営優良法人～ホワイト500～」選定	・労働災害撲滅(休業災害件数 0件) ・「健康経営優良法人～ホワイト500～」の継続取得	3,8	P.61
				⑬ 人権尊重および多様性ある人財と働き方の推進	・女性管理職比率 5%以上 ・DE&I研修管理職受講率 100%	・女性管理職比率 5.6% ・グローバル人財数 112人 ・DE&I研修管理職受講率 100%	・女性管理職比率 10%以上 ・海外拠点の部長職以上に占めるナショナルスタッフ割合 30%	3,4,5,8,10,16	P.55-61
				⑭ 人財育成と採用・定着	・1人あたり人財育成投資額 95千円/人 ・新規雇用に占める女性の割合 30%以上	・1人あたり人財育成投資額 113千円/人 ・新規雇用に占める女性の割合 19%	・エンゲージメントスコア 70% ・エンジニア人財数 280人	4,5,8	P.57-60
			Gr.7: 世界・社会との共生	⑮ 産官学連携によるイノベーション創出	・オープンイノベーション推進WGを設けコア技術の進化、新技術の獲得を図る	・産官学との共同研究 15件	・産官学連携によりコア技術の進化、新技術の獲得を図る	8,9,17	P.52
				⑯ CSR調達の推進	・CSR調達アンケートの実施 ・取引先方針説明会の実施	・CSR調達アンケート回収率 100%(対象:138社) ・取引先方針説明会出席社数 72社	・CSR調達アンケートの実施 ・取引先方針説明会の実施	1,8,10,12,13,16,17	P.62
				⑰ 地域・コミュニティの発展への寄与	・地縁地域をメインとした社会貢献活動の推進	・地縁地域へのイベント協賛 14件 ・学生、障がい者への支援活動を継続	・地縁地域をメインとした社会貢献活動の推進	4,11,17	P.61
			Gr.8: 透明で責任あるガバナンスの確立	⑱ 取締役会の独立性・透明性の確保	・取締役会の独立性・透明性の確保	・取締役会実効性評価の実施 ・役員研修会、役員向けeラーニング研修の実施	・取締役会の独立性・透明性の確保	16	P.79-80
				⑲ 事業活動における潜在リスク管理体制の整備	・定期的なリスク対策の見直し	・主要なリスク項目に自然資本対応を追加 ・情報セキュリティに対する強化継続	・定期的なリスク対策の見直し	3,11,13,16	P.81
				⑳ 企業理念と誠実性の実行	・グループ行動指針研修の継続実施 ・各種法令に関する研修の継続実施	・グループ行動指針研修受講率 100% ・安全保障貿易研修、情報セキュリティ研修(CSIRT)、取適法研修 ・ハラスメント対策勉強会の実施	・重大な法令違反 0件 ・グループ行動指針、各種法令に関する研修の継続実施	5,8,10,13,16,17	P.81-82
				㉑ 腐敗防止	・グループ行動指針研修の継続実施	・グループ行動指針研修受講率 100%	・グループ行動指針研修の継続実施 ・重大な法令違反 0件	16	P.82

メッセージ

特集

価値創造

成長戦略

ガバナンス

データセクション

競争優位性の源泉

6つの資本

当社グループが持つ多様な資源を6つの資本に分類しました。それぞれを事業活動に活用することで、さらなる事業の拡大や新たな価値創造へとつなげていきます。

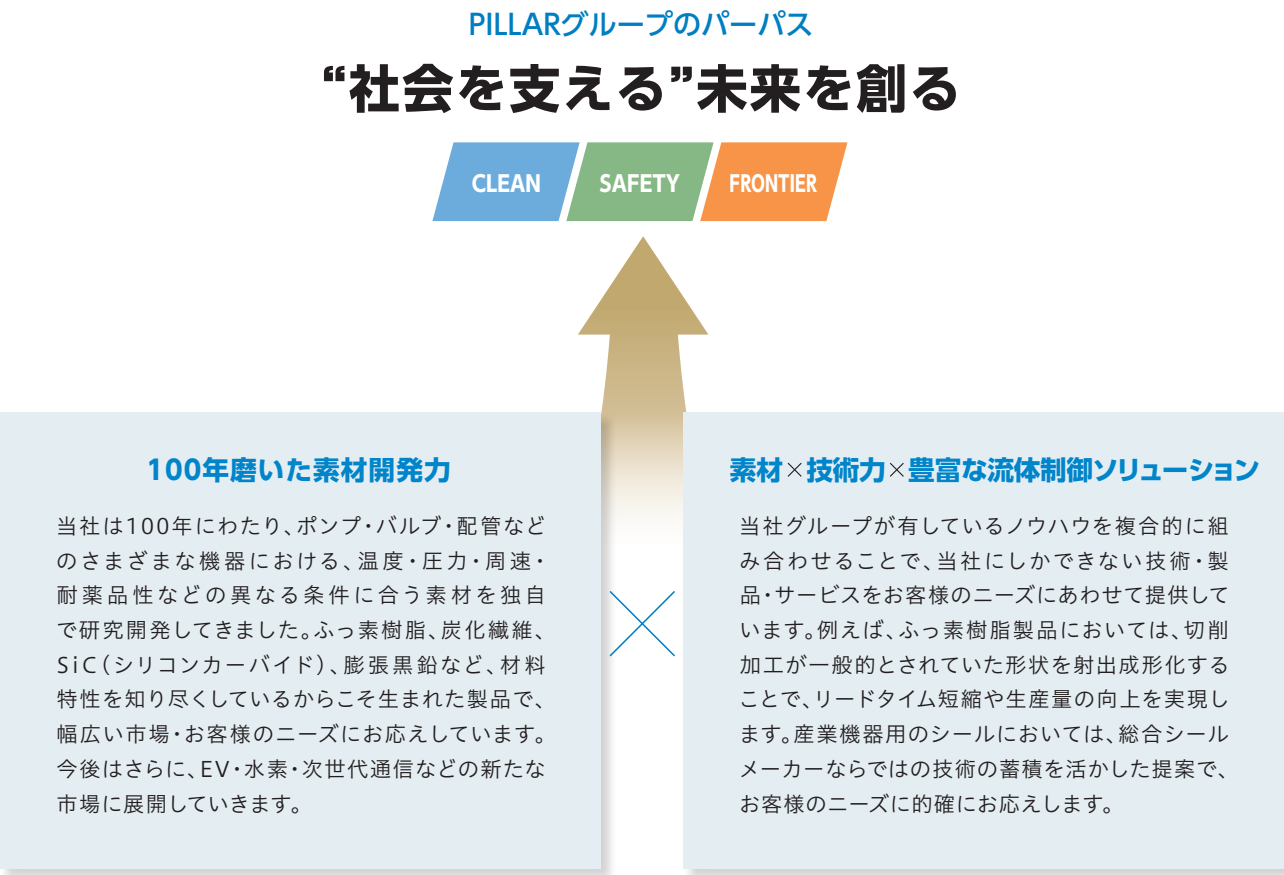
(2025年度実績)			
	関連する資源	優位性	関連ページ
財務資本	●健全な財務体質 ●営業利益率の確保 ●新たなキャッシュの創出 ●積極的な株主還元	●純資産794億円 ●自己資本比率75.2% ●営業利益率20.4% ●配当性向33.5%	P.37-40
製造資本	●グループ内生産一貫体制の構築 ●海外現地生産体制の整備 ●自動化・IoT化推進による生産性の向上 ●高水準のクリーンルーム設置 ●安全・環境に配慮した工場	●国内生産拠点12拠点 ●海外生産拠点6拠点 ●設備投資額62億円	P.83-84 P.87-88
知的資本	●高度な流体制御技術 ●100年の歴史の中で培ったノウハウ ●最先端のニーズに応える技術力 ●未知なる素材の開発力	●研究開発費20億円 ●組織横断で開発力を強化する知の拠点 三田工場イノベーションセンター ●東京イノベーションセンターの設置計画	P.16 P.47-48
人的資本	●グローバル基準で物事をとらえることができる人財 ●高いリーダーシップ・決断力・実行力を発揮できる人財 ●多様な経験・知見を持つ人財が活躍できる職場環境 ●安心して健やかに働くことができる職場環境	●連結従業員数1,308名 ●1人あたり人財育成投資額113千円／人 ●グローバル人財数※112人	P.57-58
社会・関係資本	●多様な分野の顧客接点 ●安定供給を実現する仕入先 ●産官学連携の推進 ●地域社会への貢献	●営業拠点40拠点 ●サプライヤー数623社 ●機関投資家とのIR個別面談件数202件	P.62 P.82 P.87-88
自然資本	●自然エネルギー利用促進 ●環境負荷低減を実現する製品 ●気候変動をはじめとした地球環境の保全	●CO₂排出量 (Scope1+2) 8,358t-CO₂ ●CO₂排出量 (Scope3) 103,186t-CO₂ ●太陽光発電所発電量 (売電) 810,756kWh	P.66-67

※グローバル人財数=海外拠点でのマネジメント経験者数(人事ローテーションを主とした海外拠点経験者数+ナショナルスタッフからのマネジメント層への登用者数)

強みと競争優位性

PILLARのビジネスモデルの礎となる「強み」

当社は工業用のシール(軸封) 部品の開発・製造・販売を通じて社会に貢献しています。100年の歴史の中で培ってきた「流体を制御する確かな技術」と市場拡大への挑戦を通じて得たノウハウの積み重ねと「お客様からの信頼」が当社の「強み」です。



PILLARグループの競争優位性

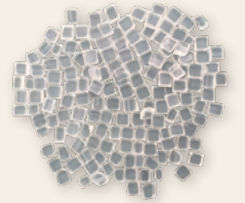
POINT 01	POINT 02	POINT 03
技術力	調達力	人財力
100年の歴史の中でさまざまな市場や製品で培ってきた「流体を制御する確かな技術」を複合させることで、新たな価値創造を実践しています。2023年11月に稼働した三田工場イノベーションセンターに当社グループの技術者を結集させることで、多様な技術の総合知の創出を図っています。また、新技術や新製品の開発プロセスにおいて、産官学連携やIT・DX技術を今まで以上に活用し、質・量・スピードを向上させ、各事業分野の技術開発を強化しています。	当社製品は、多品種小ロットのため、さまざまな部品を適切に調達するサプライチェーンを構築しています。調達先とのエンゲージメント強化を図るとともに、新たな調達先開拓を進め、価格交渉力を向上させています。近年においては、ふっ素樹脂の原材料不足に対して全社をあげて調達先の多様化を進め、供給責任を果たす課題解決を図りました。また、グループ化したタンケンシールセーコウとは同業であることを活かして調達シナジーを生んでいます。	組織のレベルを上げて次のステージに向かうためには多種多様な人財が必要です。女性部長職登用・外国籍社員の採用などを通じ、人財の育成に取り組んでいます。社内教育プログラムの充実や資格取得の手当など、手当水準をより高め、社員自らが自身のキャリアを形成していける仕組みづくりを進めています。年齢や性別・社会経験・国籍にかかわらず、成果を正當に評価し報酬に反映し、社員の能力を最大限に引き出せる、当社ならではの制度設計に取り組んでいます。

競争優位の変遷 素材開発力と流体制御ソリューションの進化

1924年の創業以来、PILLARは時代ごとの産業課題に向き合い、ニーズを先取りし、地道な研究により積み重ねた材料開発技術を活かした製品を開発することで事業領域を拡大してきました。

100年磨いた素材開発力

産機製品で培った技術を半導体分野へ



ふっ素樹脂

1950年代、PTFEの耐熱・耐薬品・非粘着性に優れた特性を活かし、ガスケットなどのシール製品を開発しました。この知見を活用し、複雑形状の熱溶融成型が可能なPFAも取り扱い、半導体市場向け継手の開発につなげました。

アスベスト代替への先駆的研究と挑戦



炭化繊維

1960年代、アスベスト問題化前から代替素材研究を進め、炭化繊維を開発し、1970年代にグランドパッキン「No.6501L」を上市しました。この技術は炭素・炭化素材の後継品へ継承しています。

高負荷環境に挑む摺動材の研究



SiC(シリコンカーバイド)

1980年代、ダイヤモンドに次ぐ硬度と高い熱伝導性を持つSiCを摺動材として採用し、原料混合から研削研磨まで一貫生産ラインを内製化しました。強酸・強アルカリ下でも使用できるため、幅広い分野に展開されています。

ヤーン化技術を確立し、用途拡大へ

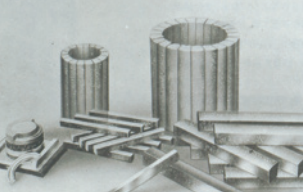


膨張黒鉛

1980年代、シート状しか使えなかった膨張黒鉛を糸状(ヤーン)へ加工する技術を確立し、完全ノンアスベスト化を実現しました。膨張黒鉛は高温・高圧環境下でも安定したシール性能を発揮し、従来のアスベストパッキンでは難しいプラントで活躍しています。

豊富な流体制御ソリューション

素材に革命を起こす



ピラーパッキンNo.1

1920年代、船舶用パッキンの漏れや軸損傷という課題に対し、創業者・岩波嘉重は減摩合金を用いた複合素材のセミメタリックパッキン「ピラーNo.1」を開発しました。社会課題を「挑戦」と「研究」で解決する姿勢は、当社の素材開発力と競争優位性の原点です。

海から陸、石油化学業界へ



ガスケット、メカニカルシール

船舶用パッキンで培った技術を応用し、1930年代に自動車エンジン向けガスケットを開発しました。さらに、高度経済成長期の高性能シール需要に応え、1950年代には日本初のメカニカルシールを開発し、流体制御技術を進化させました。

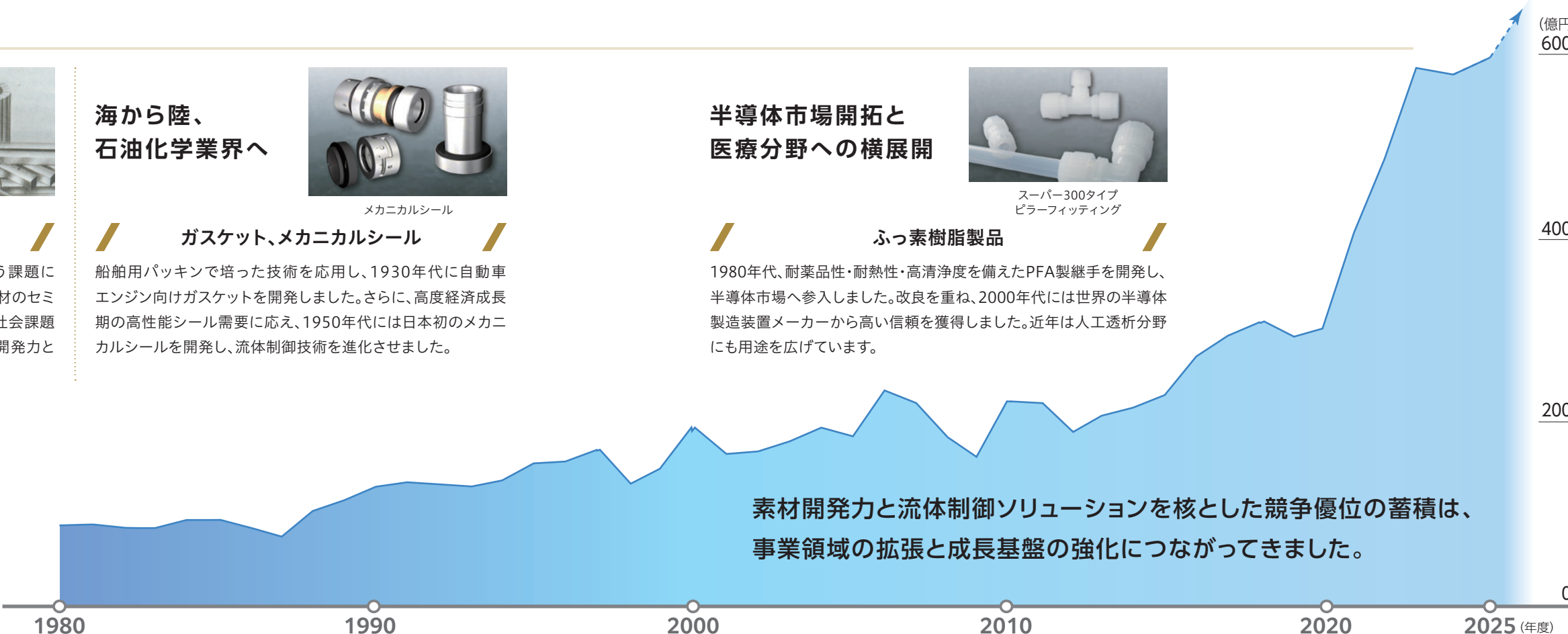
半導体市場開拓と医療分野への横展開



ふっ素樹脂製品

1980年代、耐薬品性・耐熱性・高纯净度を備えたPFA製継手を開発し、半導体市場へ参入しました。改良を重ね、2000年代には世界の半導体製造装置メーカーから高い信頼を獲得しました。近年は人工透析分野にも用途を広げています。

売上高の推移



600
400
200
0 (億円)

1980 1990 2000 2010 2020 2025 (年度)

社会的出来事

1985	プラザ合意	1991	バブル崩壊	ソ連崩壊	2005	京都議定書発効	2011	東日本大震災	2020	英国、EU離脱	2022	ロシア軍、ウクライナ侵攻
1989	ベルリンの壁崩壊	1993	欧州連合(EU)発足	2008	リーマン・ショック	2016	パリ協定発効	2021	新型コロナウイルス感染拡大	2023	パレスチナ・イスラエル紛争勃発	
		1999	ユーロ誕生						東京オリンピック・パラリンピック開催	2024	能登半島地震発生	
										2026	米国・イラン軍事衝突	

素材開発力と流体制御ソリューションを核とした競争優位の蓄積は、事業領域の拡張と成長基盤の強化につながってきました。

ビジネスモデル

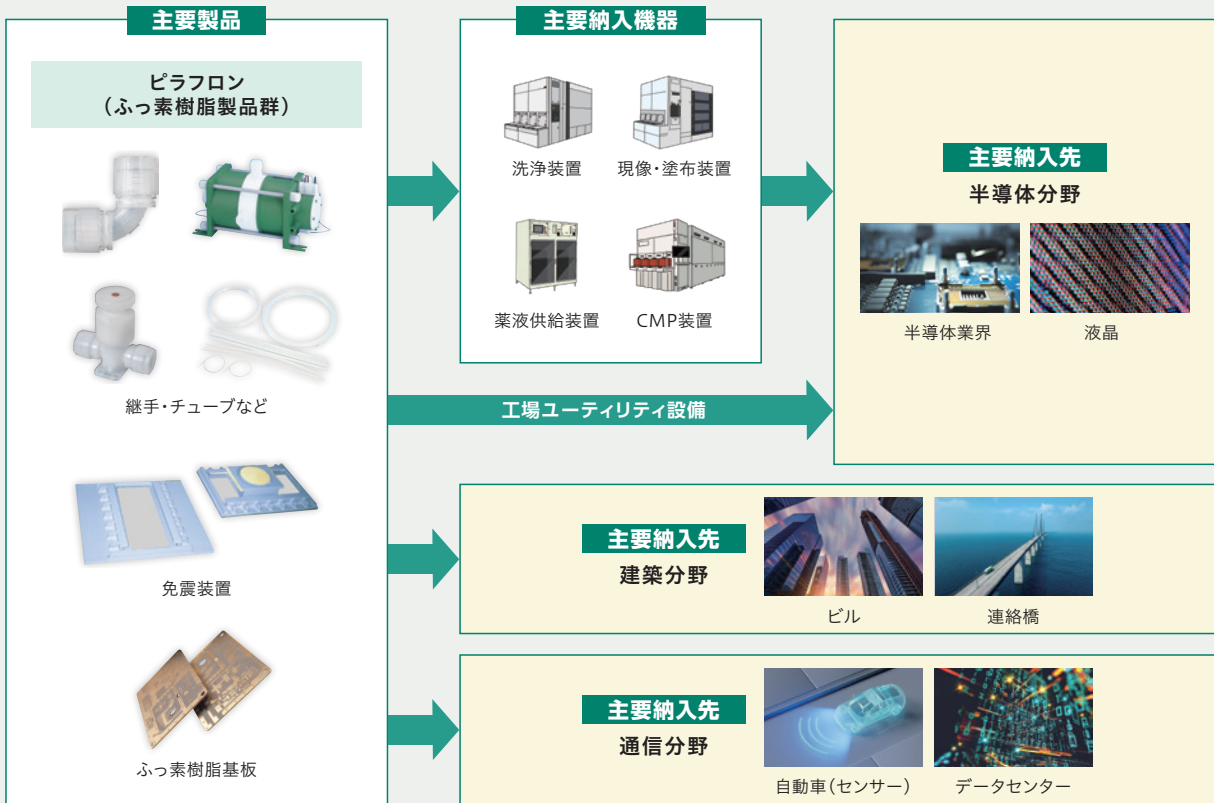
100年磨き上げた強みを礎に、2つの領域で価値を創造する

当社は「素材開発力」と「豊富な流体制御ソリューション」を強みに、100年を超える歴史において各時代のニーズに応えることで市場を開拓し、製品ラインナップを拡充してきました。

このコア技術を活かして、「電子機器関連事業」と「産業機器関連事業」の2つの領域において新たな競争優位を生み出し価値創出を加速させています。

電子機器関連事業

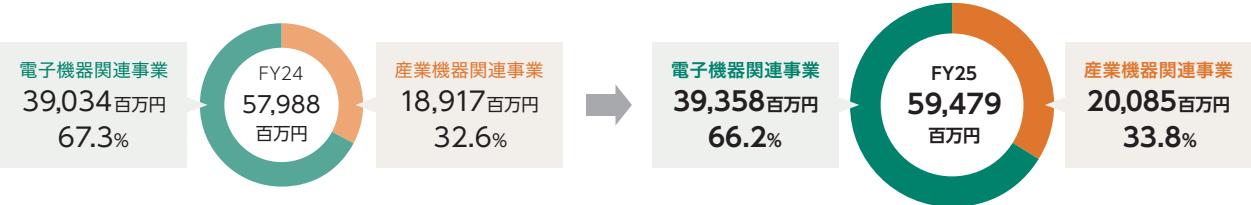
化学的安定性、低摩擦係数、低誘電率など多くの特性を高レベルにあわせ持つふっ素樹脂をさまざまな技術で製品化し、半導体・建築・通信などの市場に提供しています。



電子機器関連事業における競争優位性

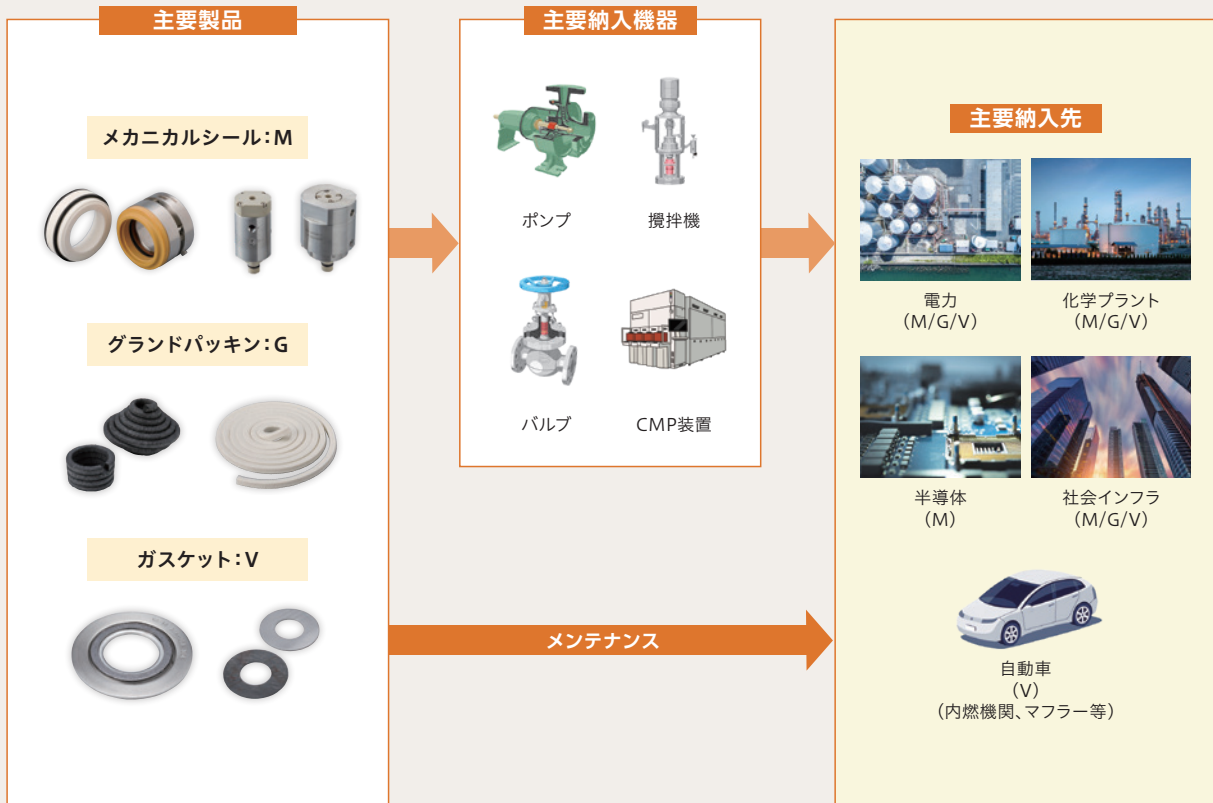
シール材でふっ素樹脂を扱い、素材の知見を極めたことによる“高い技術”	無事故による市場からの高い信頼	最先端市場における大手企業との直接取引による市場ニーズの掘り起こし
半導体市場向けふっ素樹脂製品は、グラントパッキンやメカニカルシールで使用していた、ふっ素樹脂を技術転換して生まれた製品です。独自に研究開発してきた材料技術の知見を土台に、その特性を活かしてほかの業界に活かせる製品を生み出してきました。	さまざまな産業機器関連市場で評価を得ていた、ふっ素樹脂の特性を活かして、半導体市場向け製品を開発・上市しました。半導体黎明期から高品質の製品を提供し続けることでお客様から高い信頼を得ることができ、半導体洗浄装置向け継手において世界No.1シェアを有しています。	当社は国内・海外の大手半導体製造装置メーカーとの直接取引による太いパイプがあります。変化が激しく、スピーディーな対応が常に求められる市場において、当社はお客様の高い要求に応える中で、開発トレンドや開発ニーズなどをいち早くキャッチし、自社の技術開発に反映しています。

セグメント別売上高の推移



産業機器関連事業

エネルギー・石油精製・化学・自動車・船舶・医療・食品などのプラント・機器において多種多様な流体を制御するシール製品を提供し、あらゆる産業を支えています。



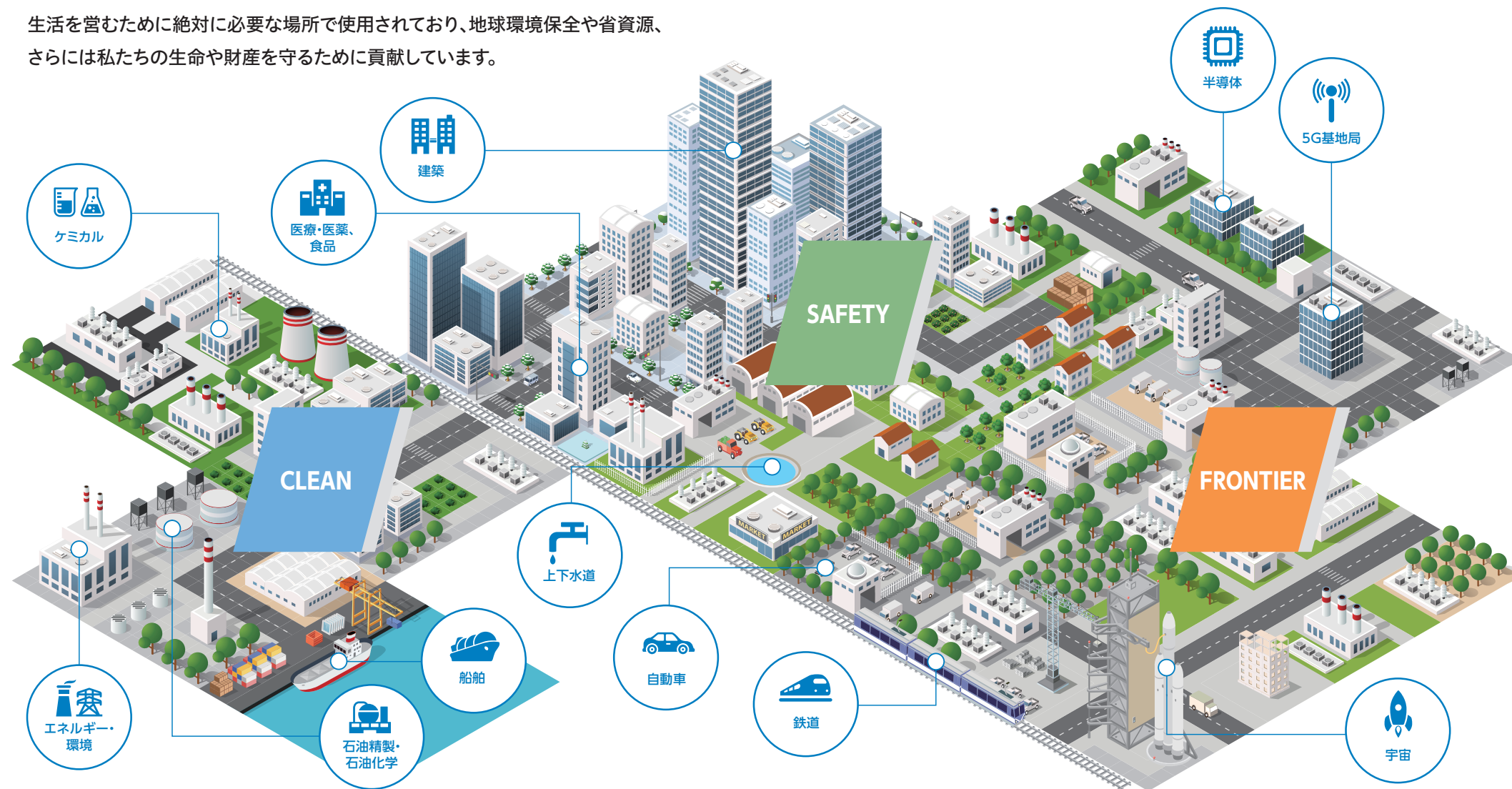
産業機器関連事業における競争優位性

多様な製品群を持つ総合シールメーカー	産業機器関連事業における起爆剤となるタンケンシールセーコウのグループ化
工業用シールは大きく分けると「グラントパッキン」「ガスケット」「メカニカルシール」などに分類されます。当社はそのすべてを取り扱っている唯一の総合シールメーカーです。例えば、グラントパッキンで引き合いをいただいたお客様の潜在ニーズにお応えし、メカニカルシールをご提案できるのは当社だけです。“次の100年”に向けて、2023年に竣工した三田工場イノベーションセンターに技術者を集結させ、当社が保有する技術の複合・融合をより一層、進めていきます。	2023年にグループ化したタンケンシールセーコウは、3期連続で過去最高の売上高と営業利益を計上しました。これは、補完関係にあった両社のメインフィールドや内製化部品を早期に組み合わせることによる、シナジー効果です。今後は、両社の得意とする市場の相互補完やクロスセルによる販売機会の拡大、それぞれが培ってきた技術の融合による新製品の開発など、さらにシナジー効果を高めていきます。

暮らしと環境に創出する価値

当社は、水や油、危険な薬液・ガスなどの流体を制御する関連機器を設計・開発、製造するメーカーです。

生活を営むために絶対に必要な場所で使用されており、地球環境保全や省資源、さらには私たちの生命や財産を守るために貢献しています。



OUTCOME

社会・環境にとっての価値

- 人々の生活にもたらす安心・安全
- 環境負荷の低減
- 工業製品の飛躍的な発展
- 社員・地域社会に対する安全と信頼の確保
- 安定的な雇用創出
- 透明性の高い経営
- 半導体の高機能化
- インフラ供給に不可欠な製品・サービス

PILLARにとっての価値

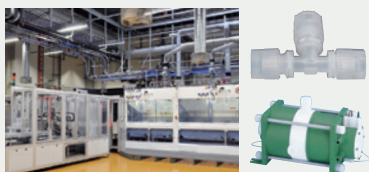
- 社会・環境課題解決に資する製品
- 新市場に対応する製品開発・製造
- 技術革新と知財戦略等に基づくお客様への付加価値提案
- 生産性向上と低コストの実現
- ステークホルダーへの安定的な利益還元
- 流体制御技術とIT・DX技術の融合による先端技術へのチャレンジ
- 独創的な流体制御関連製品によるソリューション提案と製品提供
- お客様および市場全体の企業力向上

電子機器関連事業の主な製品

サーキュレーション製品 (継手・チューブ・ポンプほか)

半導体の微細化・集積化など高性能化に貢献

半導体や液晶の製造装置などの薬液配管部材として、安全性・クリーン度・配管サイズの適応性など多様なニーズにお応えしています。

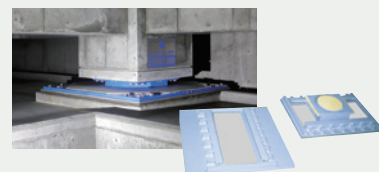


サーキュレーション

免震装置・スライドベアリング

地震の揺れから建物を守る

免震建物、屋根、連結橋などの支持部に伝わる力を回転・すべり機構によって軽減・吸収し、建築物・構造物の安全性や耐久性の向上に寄与しています。



免震装置・スライドベアリング

ふっ素樹脂基板

高度な通信環境に貢献

ふっ素樹脂が持つ高周波帯での優れた低電気損失特性により、5G/6Gのモバイル基地局等のアンテナ、データセンター等の高速サーバー向け多層基板、自動車の衝突防止レーダーといったミリ波・マイクロ波の機器性能・低消費電力化に貢献しています。



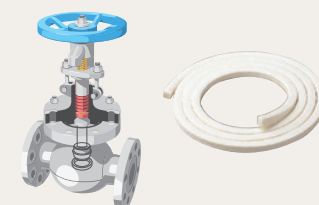
ふっ素樹脂基板

産業機器関連事業の主な製品

グランドパッキン

暮らしの安全・安心に貢献

バルブのステム部やポンプの軸封部など、回転運動や往復運動する軸周りからの内部流体の漏洩を防ぎます。

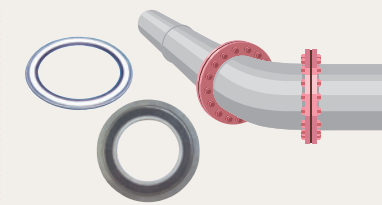


グランドパッキン

ガスケット

安全・安心な機器の使用に貢献

配管の接合部、機器の接合部、機器と配管との接合部など、静止している部品と部品の接合部を密封します。



ガスケット

メカニカルシール・回転機器用シール

安全・安心なプラント操業に貢献

ポンプ、攪拌機、コンプレッサー、ロータリージョイントなどさまざまな産業機器の軸封部からの内部流体の漏洩を防ぎます。



タンケンABCシール

ピラーPPGシール